

ID	受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有成分	文脈	症例	適正使用 特記事項	感染症(PT)	出典	概要
1019	2008/03/17	71019	フジモト・ ダイアグノ スティック ス	ウクシニアウイルス接種家免疫炎症皮膚 抽出液	ウクシニアウ イルス接種 家免疫炎症皮 膚抽出液	日本白色種 家免疫皮膚抽 出液	中国	有効成分	無	無	無			
1020	2008/03/17	71020	田辺三菱 製薬	インフリキシマブ(遺伝子組換え)	インフリキシ マブ(遺伝子 組換え)	マウス脾臓細 胞と骨髓腫細 胞を融合した 細胞にヒト遺 伝子を導入し た細胞株	米国、カナ ダ	有効成分	無	無	無			
1021	2008/03/17	71021	田辺三菱 製薬	インフリキシマブ(遺伝子組換え)	ウシ蛋白加 水分解物	ウシ脾臓、ウ シ血液	米国	製造工程	有	無	無	異型クロイツ フェルト・ヤコ ブ病	Virchows Arch 2007; 451: 1057- 1065	リンパ器官から中枢神経系へのPrPScの神経伝達に関する細胞の要件を明らかにするために、共焦点顕微鏡を用いて、正常およびPrPSc接種マウスと後マウスのパイエル板、腸間膜リンパ節および脾臓内の神経支配について調べた。前臨床プリオン感染マウスではPrPSc蓄積細胞(濾胞樹状細胞)の神経支配はなく、T細胞ゾーンと細胞輸送領域で神経線維とPrPSc伝達細胞(樹状細胞)の接触が見られた。プリオンの神経伝達過程に樹状細胞が関与する可能性が初めて示された。
												異型クロイツ フェルト・ヤコ ブ病	J Biol Chem 2007; 282: 35878-35886	トランスジェニックマウス(101LL)を用いた感染性実験の結果、TSE疾患の臨床症状と脳の空胞化という徴候を示すがPrPScのレベルが低いもしくは免疫プロット法では検出されない動物の脳組織内に、高力価のTSE感染性が存在することが明らかとなった。この結果はPrPScのレベルと感染価との間の相関性に疑問を投げかけるものであり、プロテアーゼ抵抗性のPrPをほとんどもしくは全く含まない組織が感染性となりうること、および高力価のTSE感染性を有していることを示すものである。
												異型クロイツ フェルト・ヤコ ブ病	J Virol published online on 30 January 2008	非典型的BSE株の1つであるBASE(またはBSE-L)の感染性およびヒトでの表現型を調べた。BASE由来の脳ホモジネートを、ヒトプリオン蛋白を発現するトランスジェニック(Tg)マウスに接種したところ、60%が20-22ヶ月後に感染し、古典的BSEに関する報告より高い感染率であった。BASE感染ヒトTgマウス脳における病因性プリオンのアインフオームは、元のウシBASEまたは孤発性ヒトプリオン病のものとは異なっていた。またBASEプリオンはリンパ嗜好性であった。